

この本を薦めます

学会誌編集委員長 佐々木 葉

第13回



橋本 鋼太郎

土木学会会長

1月はやはり会長に。土木学会会長としての責任から、しっかりと勉強しようと思われた3冊をご紹介します。

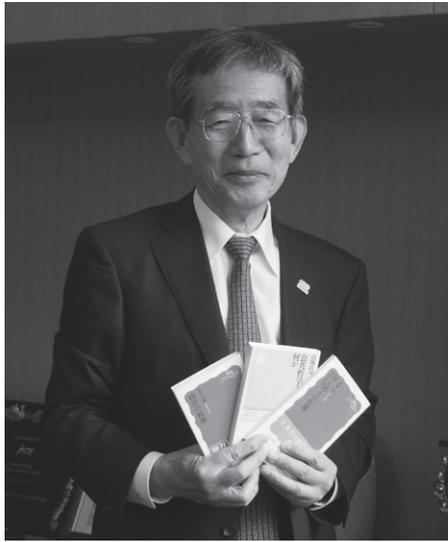
改めて土木とは何かと問うならば、まず自然と国土を対象と

すること、公共性があること、さらに政治とも密接に関わること。その他にも倫理観や人の心を考えるといった観点も重要。そうお考えの会長は、最初の3点に関わるものとして、以下の本をご紹介します。

まず自然災害の多い国土を考えるために、高橋裕先生の「川と国土の危

機」。この本から改めて戦後の災害の大きさを認識するとともに、河川

改修を進めたことで流量が増えたといった指摘にはっとしたとおっしゃる。歴史に学ぶこと、自然を見る目の養い方、現場主義、日常の観察の重要性、水源地から海岸までトータルに見ること、さらには政策に対するきびしい目。道路の分野で永らくお仕事をされてこられた橋本会長は、河



HASHIMOTO Kotaro

1940年生まれ。東京大学卒業後、建設省(当時)入省。道路局長、建設技監、事務次官など歴任。首都高道路(株)社長など。2013年6月に土木学会第101代会長に就任。

川の分野から書かれたこの本にことさら多くの示唆を得たと、まず推薦された。次いで「公共哲学とはなにか」。山脇直司氏の著書

は以前からよくお読みになっていたとのことで、インタビュー時にも山脇氏が書かれた新聞の論説の切り抜きを手にとっていた。この本は、古今東西の思想家の論を広く紹介しながら、社会の公共性とは何か、自己と他者と公共世界の関係をどのように理解するかを導いていく。個々の論をなんとなくそりかきかきと思いがら読み進めることで、公共ということについて自ずと考えさせられる本と評される。

以上3冊、いずれも堅い本をご紹介いただいた。和歌の同人誌も愛読されるとのことだが、会長の重圧、そんな言葉もお話のなかで出てきたように、社会と人の問題を常に考えておられる会長から、土木の人たちは倫理観や社会的責任といったことをもつと学ぶべきでは、という熱いメッセージをいただいたと感じた。



川と国土の危機
—水害と社会—
高橋裕：
岩波新書



公共哲学とはなにか
山脇直司：
ちくま新書



政治の精神
佐々木毅：
岩波新書